

青木繁『海の幸』と文化遺産を活かしたまちづくりの歩み

1904 (M37) 青木繁が、坂本繁二郎・森田恒友・福田たねとともに、房州布良の小谷喜録宅(屋号:きろく)に滞在。『海の幸』制作。

1905 (M38) 青木繁・福田たね、房州再来訪、伊戸の円光寺に滞在。第一子・幸彦誕生。

1911 (M44) 青木繁 死去、享年 28。

1961 (S36) 青木繁没後 50 年。千葉県営館山ユースホテル(YH)開業に伴い、田村利男館山市長・坂本繁二郎・辻永・河北倫明らが発起人となって、隣地に『海の幸』記念碑建立計画立案、募金事業開始。

1962 (S37) 青木繁『海の幸』記念碑建立。設計者:生田勉(東京大学教授)。除幕式に福田たね・蘭童が出席。

1998 (H10) 館山 YH 廃業に伴い、記念碑(国有地)の撤去命令。富崎コミュニティ委員会役員らが記念碑保存の要望書を関係先に提出、館山市が国有地の借地料を支払うことで記念碑は解体を免れ、現在に至る。

2005 (H17) ブリヂストン美術館にて特別展示「青木繁『海の幸』100 年」開催。富崎コミュニティ委員会・NPO 安房文化遺産フォーラムの協働で、“青木繁『海の幸』100 年”から布良・相浜を見つめる集い」開催。このとき、富崎地区連合区長会の吉田昌男会長より「青木繁『海の幸』記念碑を保存する会(仮称)」発足の提案、小谷家当主(小谷栄)より「青木繁が滞在した小谷家住宅を保存し、地域活性化に役立てたい」と発言。

2006 (H18) 館山市やNPO千葉自然学校等との協働で、富崎・平砂浦ガイド講座やウォーキングガイドを実施。

2007 (H19) 富崎地区コミュニティ委員会・NPO安房文化遺産フォーラム・NPO全国生涯学習まちづくり協会の協働で、「輝け富崎! コミュニティのつどい」を開催。NPO安房文化遺産フォーラムが建築文化財専門家山田和夫氏に小谷家住宅の調査を依頼。その評価に基づき、小谷家当主(小谷栄)より、館山市教育委員会へ文化財指定申請書を提出、館山市文化財審議会にて審議。

2008 (H20) NPO安房文化遺産フォーラム・富崎地区連合区長会の連名にて、館山市長および同教育長宛てに「小谷家住宅と記念碑の保存・活用に関する要望書」を提出。富崎地区コミュニティ委員会の役員や館山市内の著名人をはじめ全国の美術関係者らが発起人となって「青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会」を発足。事務局は、NPO法人安房文化遺産フォーラムに付託。小谷家住宅が館山市文化財に指定される。

2009 (H21) NPO安房文化遺産フォーラムが国交省「新たな公によるコミュニティ創生モデル事業」に選定され、「3つの“あゝ”のまちづくり～青木繁・安房節・アジのひらき」を実施。当会との協働で、元気なまちづくり市民講座を開催、ウォーキングマップや漁村のレシピ集を作成し富崎地区に無料配布。館山市が、青木繁『海の幸』記念碑の説明看板を設置。当会と小谷家当主(小谷栄)が「小谷家住宅の保存管理等についての覚書」を交す。

2010 (H22) 小谷家住宅の保存を目的に、全国の美術関

係者らが発起人となって、NPO青木繁「海の幸」会(大村智理事長・吉岡友次郎事務局長)設立。小谷家の修理計画について、当会と協議を実施。

2011 (H23) 当会を小谷家住宅の管理責任者に選任する旨、小谷家当主(小谷栄)より館山市教育委員会に届出。青木繁没後 100 年命日祭「けしけし祭」(福岡県久留米市)に、小谷家当主(小谷福哲)ら保存会より6名参加。石橋美術館・京都国立美術館・ブリヂストン美術館にて、「青木繁没後 100 年展」開催。東日本大震災により屋根瓦のズレが生じ、緊急修理を実施。当会とNPO青木繁「海の幸」会において、全体の修理計画・見積の再検討を協議。文化庁「地域の文化遺産を活かした観光振興と地域活性化」補助事業に選定され、青木繁『海の幸』フォーラム等を開催。「布良という聖地へ行こう!」のポスターを全国に配布。

2012 (H24) 文化庁「地域の文化遺産を活かした観光振興と地域活性化」補助事業として各種事業を行なう。館山市ふるさと納税のなかに、「小谷家住宅の保存・活用」事業を指定する寄付制度が設けられた。NPO青木繁「海の幸」会では、小谷家保存のチャリティを目的に青木繁オマージュ展を東京銀座と館山で開催(館山市・教育委員会の後援)。

2013 (H25) 引き続き文化庁「地域の文化遺産を活かした地域活性化」補助事業として各種事業を実施。当会是小谷家、「海の幸」会、館山市教育委員会生涯学習課とともに「小谷家住宅四者協議会」(以下、四者協議会)を発足させ、相互理解と信頼を深めながら具体的な話し合いを重ねる。小谷家住宅の保存修理事業計画概要を策定して、2014 年より2ヶ年計画で修復工事を実施、2016 年4月に公開するとの合意に達した。

2014 (H26) 小谷家と当会および「海の幸」会は、「青木繁『海の幸』誕生の家・小谷家住宅の修復・公開に関する三者覚書」を調印。4月より修復工事に着手。館山市文化財審議会委員・日塔和彦氏の助言を得ながら、四者協議会を開催。設計監理は中村詔雄社寺建築設計事務所に依頼。青木繁オマージュ展館山展を2会場で開催(協賛:館山美術会)。文化庁「地域の文化遺産を活かした地域活性化」補助事業として各種事業を実施。

2015 (H27) 2ヶ年目の修復事業を実施。公開に向け、準備委員会を設置。文化庁「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」の委託により、整地造園・展示設営のワークショップ等を実施。NPO青木繁「海の幸」会の大村智理事長が、ノーベル医学・生理学賞と文化勲章を受章。韓国光州市立美術館名誉館長・河正雄氏(財団法人秀林財団理事長)より、彫刻家・船田正廣氏制作の『刻画・海の幸』がブロンズに鋳造され、小谷家・青木繁旧居(久留米市)ほか韓国3ヶ所に寄贈が決定。

2016 (H28) 四者協議会を開催(全11回)。3/13 臨時総会、ブロンズ『刻画・海の幸』除幕式。4/24 オープンセレモニー、4/29 より一般公開。